



谷：先輩、ジャイカってご存知ですね？

中：おー、知っとる。知っとる。こないだ居酒屋で食べたで。イモにイカのダシがよ〜しみとって、そりゃ美味かった。

谷：それ、ジャガイカです。

中：ジョーダン、冗談。ジャイカイやあ、カリブに浮かぶ島国よ。新婚旅行で嫁さんと行った思い出の場所じゃ♥

谷：それって、ジャマイカね。(嫁さん以外と行ったら新婚旅行にならんじゃろ！)

中：ああそうか。そういや、カーブのユニフォーム着て野球の練習しとるのがおったが、なんでかのう？

谷：そりゃ、ドミニカじゃ！(やっぱ、嫁さん以外と旅行に行くとる！結婚当時はカーブアカデミーはまだ無かったはずじゃ。)

中：あ、思い出した。子供の頃に勉強で使ったノートじゃ！

谷：それジャポニカ学習帳！(話にならんわ)もういいです。今度のインタビュー中は黙っててください。

というわけで、今回は53回卒のJICA副理事長 大島賢三さんの登場です。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

谷：本日は大変にお忙しいところ、お時間を割いていただきありがとうございます。

大：ようこそ。遠いところをよくお越しくださいました。あいにくの雨で大変でした。



広い応接室でのインタビュー

谷：早速ですが、在学中の頃の思い出を教えてくださいませんか？

大：そうですね。附属とは直接関係ありませんが、一番の思い出はAFS (American Field Service)の留学経験ですかね。高校2年生の途中から1年間ミネソタ州の高校に留学しました。別々の高校でしたが、同じ学年で5人(男3人、女2人)も留学しました。

谷：5人は多くないですか？

大：ええ。ちょっと特殊なケースでしょうね。広島からは確か6人いたと思いますが、そのうち5人が附属からでした。私も含め、そのうち4人が後に外務省に入りました。[注：伊藤哲郎氏、楨田邦彦氏、PRATI(旧姓 佐久間)成子氏、松崎(旧姓 今井)圭子氏] そういうわけで、卒業は53回ですが、52回にも同級生がいるわけです。当然附属での思い出もたくさんあって、印象深いのが教育実習ですね。英文法にめっぽう詳しい同級生がいて、質問攻めにしたら、女性の実習生が泣き出しちゃってね。私じゃないよ(笑)。それを見ていた次の番の実習生(男性)が、教壇に上がるなり股間をギュ〜っと握り締めましてね。ギョっとなりましたが、「とても緊張しているのやっ」と。あがった時にはとても効果があるそうです。私も、後に国連でスピーチをしなければならぬ時など、極度に緊張した時はやろうかと思った事が何度かありました。さすがに実行したことはまだありませんが、その度に当時の光景を思い出します。それから、やっぱりサッカーですかね。私自身は卓球部でしたが、休み時間やクラスマッチでサッカーをやっていました。一級上には小城さんと桑原さんらがいたし、同級(52回)には榎並君や河野徳助君らがいて、彼らとサッカーをして遊んでいたのが素人にしては結構レベルは高かったかも。大学に入って、体育の時間にサッカーをやったら先生や学生から「サッカー部だったのか？」って聞かれましたからね。

谷：高校卒業後は東京大学に進学されましたが、当時から外交官を目指されていたんですか？

大：いやいや。大学合格当時は何も考えてなかったですね。入学後に「さて、何しようかなあ」って考えていたところに、ちょうど留学前の仲の良かった同級生(52回黒川成男氏、



**P r o f i l e**

昭和18年5月14日広島市東区生まれ、38年3月広島大学附属高等学校卒業、41年9月外務公務員採用上級試験合格、42年3月東京大学法学部中退、同年4月外務省入省、58年1月在オーストラリア日本国大使館一等書記官、59年1月参事官、60年7月経済協力局技術協力課長、63年1月経済協力局政策課長、平成2年7月在アメリカ合衆国日本国大使館参事官、3年1月公使、5年8月国際協力事業団総務部長、7年8月外務大臣官房審議官兼アジア局、9年8月経済協力局長、11年8月総理府事務官国際平和協力本部事務局長、13年1月国際連合事務局事務次長(アメリカ合衆国ニューヨーク)、15年7月特命全權大使 オーストラリア国駐節、16年11月特命全權大使 国際連合日本政府代表部常駐代表、19年10月独立行政法人国際協力機構(JICA)副理事長

一年前に東大入学)に勧誘されて合気道部に入ったんですが、それにハマっちゃいましたね。日々の稽古に熱中し、年に3〜4回ある合宿費を稼ぐためのバイト、そしてデートに時間の殆どを費やしていました。合気道→アルバイト→デート→合気道→アルバイト→デートの繰り返しでした。

中：デートのお相手はどんなタイプの方が多かったんですか？それと何人ぐらい？

谷：(も〜、黙っという言うたのに。)

大：タイプは秘密ですが、人数は一人ですよ。今では私の妻になっています。

中：ほ〜。その辺のお話を詳しく。

谷：(聞かんでエエっちゃんに！)

大：大学入学後に知り合ったんですが、実は彼女も私と同時期にAFSで留学していたんですよ。それがきっかけでお付き合いが始まって…。

中：今もラブラブってわけですね〜。

谷：(このおっさん、なんとかしてくれ〜！)

大：それはご想像にお任せしますよ。そんな訳で学業の方は当然低空飛行です。試験もクラスメートにノートを借りて、1日じゃ無理だから3日漬けて何とか留年を免れる、そんな事を繰り返していました。しかし3年次になって、同級生たちの影響もあったので「このままじゃいかな」と思い始めて、真剣に進

路について考えました。

中：そこら辺りがやっぱり我々と違いますね。

谷：(「我々」って、ワシもかい!!)

大：いや、そこはどうかわかりませんが、とにかく学業にまじめに取り組む事にしたんですよ。そんな中でクラスメートにつられて力試しに「外交官試験」を受けたら、運がよかったのかどうか知りませんが、合格しましてね。迷いましたが、1年留学してるし、それを取り戻す気持ちもあって卒業を待たずに外務省に入る事にしました。

谷：そうでしたか。外務省に入られてからの思い出を教えてください。

大：一つ目は湾岸戦争ですね。ワシントン勤務が始まる2週間前にサダム・フセインがクウェートに侵攻しましてね。「こりゃ大変な事になったぞ」と。普通は赴任しても2週間ぐらいは荷解きしたり、挨拶回りしたりするんですが、そんな暇は無くて初日から帰宅時間が午前2時とかになりました。大使の補佐をして米国との折衝その他で大忙しでした。国内でも自衛隊を出す、出さないで大騒ぎだったと思います。二つ目は国連勤務ですね。コフィー・アナン事務総長の下で人道問題を担当して、問題を抱える世界の各地域を飛び回りました。そういう所は大体物騒な地域で、いつドンパチが始まってもおかしくないような感じなんです。9.11後に事務総長の親書を持ってアフガン入りしてタリバンの指導者に会いに行ったり、周辺諸国を廻っていた時なんか、「いつ弾が飛んでくるかもしれないから気をつけろ」って言われましたが「どうやって気をつけるんじゃ？」って思いましたよ。それから内戦の続く東コンゴの反政府軍のリーダーに会いに行った時の事も印象深いですね。訪問スケジュールが非常にタフだった事もあって、歓迎ディナーの最中、

眠気を追い払うのに必死だった時の事です。反政府軍のリーダーが歓迎スピーチで「ムッシュ・オオシマは日本の天皇陛下の子供で…」となった時は眠気がいっぺんに吹き飛びました。答礼スピーチの時に困りましたね。リーダーの顔をつぶすわけにいかんし、誤解されたままじゃいけないし、ほんとに困りましたが、一応私も法学部でしたから、憲法第一条を引っ張り出しましたよ。

中：「戦争放棄」ってやつですね。

谷：(そりゃ第九条。反政府軍を刺激してどうするんじゃ。)

大：……。「日本国憲法第一条には、『天皇は日本国の象徴であり、日本国民統合の象徴であって…』とあり、そういう意味で私も当然天皇陛下の子供の一人であります。』と答えました。それから人道援助ではないのですが、現事務総長の潘基文(パン・ギムン)さんが安全保障理事会で選ばれた時に議長として直接電話で話した事も印象深いですね。

谷：現在はJICA副理事長をお努めですが、そのきっかけはどのようなものだったのですか？

大：理事長の緒方貞子さんからの直接のお誘いです。外務省時代の1/4は現在の仕事に繋がっているものでしたから、喜んでお引き受けしました。

谷：先日は放射線被曝者医療国際協力推進協議会(HICARE)理事へのご就任も報道されていましたね。

大：ええ。私自身が被爆者ですし、佐々木貞子さんと同じ職町中学校出身ですから。でもアカシアのメンバー(62回三村義雄氏、広島市健康福祉局長)に就任を依頼されたのが決め手ですかね。

谷：アカシアメンバーへのメッセージをお願い致します。

大：広島出身の皆さん、そして特にアカシアメンバーは世界各地・各界で活躍されていて、結末が非常に固い。そのメンバーの一員である事に私は

誇りを持っています。そのアカシアの伝統・文化をこのまま維持・発展させ、世界に貢献し続ける事ができれば最高ですね。

谷：現役生徒諸君にもメッセージをお願いします。

大：月並みな表現で申し訳ないが、「夢を大きく持って欲しい。可能性を信じて突き進んで欲しい。」と思っています。夢を実現させるには大きな困難が待ち受けていますが、それにチャレンジする実行力を身につけて欲しいですね。手前味噌ですが、青年海外協力隊に参加した人たちの話を聞くと、まさにそう実感します。人の為に尽くす事が、結局は自らの人間形成となり、将来の糧になっている。夢を実現する、チャレンジを「実行」する力を養って欲しいと強く思います。

谷：本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

中：今回もええインタビューが出来たのう。さっき新宿駅で土産買ったので。ほれ、持って帰れや。

谷：ほ〜、気が利きますね。なんですか？

中：ジャコ天にイカの切り身を混ぜてあるやつ。うまそうじゃったでえ。

谷：も〜いいです。いい加減にしてください！

中：そー、ムキになるなや、軽い冗談 じゃなイカ。

中本 泰弘(65回)  
谷口 公啓(73回)



左から谷口公啓(73回)、大島賢三氏(53回)、中本泰弘(65回)

### 講堂前の渡り廊下撤去。甦った旧制広島高校の講堂を大切に！

旧制広高と附中の歴史、並びに、講堂が附高のものとなったいきさつについては、アカシア会報5月号(411号)に掲載！  
ご覧になりたい方は、アカシア会事務局にお問合せください。

増田 正和 (31回卒)